

市長と我がまちづくり報告

4月30日から6月9日まで市内21区を会場に、今回は特に諏訪の市町村合併にかける夢や、岡谷市のまちづくりについて、市民のみなさんから多くの意見、提言をいただきました。その中で主な内容を紹介します。

- ：市民のみなさんの意見
- ：市回答

① 諏訪の市町村合併について

- 合併しなかったらどうなるのか。
- 今後国からの補助金（地方交付税）が、現状より4割くらいカットされると算出している。財政的に、現在の行政サービスのレベルを維持していくことが困難になってくる。合併しなければ、収入が減る中で、住民ニーズに対応した組織が必要であり、厳しい状況が予測される。
- 合併後、15年間は交付税が保障されるが、それ以後は19億円減るといわれている。財政は大丈夫なのか。

- 合併をした場合、行政・経済・生活・文化面において現実に即した自治体が構築でき、首長は5人減り、議員数も減り、15年くらいで市職員も500人減らせ、人件費だけで43億円節減できる。最終的に交付税は19億円減るが、合併によるスケールメリットにより健全財政が守られる。

- 岡谷市は合併したら諏訪盆地のはずれになる。サービスの低下が心配。

- 対応策として、分権型合併にして地域局を現在の庁舎に置き、福祉や教育など市民が直接関係するものは地域局で行い、一つにまとめられる総務、企画、議会事務局などを本庁に置く。行政サービスの低下をまねかないよう現実に即した人員配置を行う。

- 住民サービスは高い水準に、住民負担は低い水準に合わせるといえるのか。
- 行政には1700近くの事務事業があり、今調整をしている。任意合併協議会では、8月末までに新市の建設計画案を立てる。例えば、保育園は現行どおり新市に引き継ぎ、保育料は諏訪市を基本に新市において定める。また、長時間保育は諏訪市、一時保育は茅野市、休日保育は岡谷市というように、安い方に統一していく方向が出ている。負担として、地方税の税率は、標準税率を使うためほとんど同じ。

- 財産区はどうなるのか。
- 財産区はそのままの形で残る。
- 各地区で行っている「いきいきデイ」等は続けていけるのか。
- 合併後も地域コミュニティは存在し、特色ある地域が維持できる体制をつくる。



いただいたご意見は、今後の市政運営の参考にさせていただきます。時間等の関係で、市長と我がまちトークで話せなかったことや聞けなかったことは、出前講座をご利用いただくとともに、アイデアメール、手紙、FAX、Eメールなどでお寄せください。

■合併するなら6市町村一緒にするのが良いが、合併しなかった市町村はどうなるのか。

□今回は新設対等合併することで協議している。今回合併できなかった自治体が将来合併する場合は、吸収合併となる。

■住民投票をするのか。

□6市町村で明確に住民投票をするのは、下諏訪町と富士見町である。岡谷市、諏訪市、茅野市、原村は、アンケート調査により民意の把握をしていく。岡谷市では、18歳以上のすべての市民のみなさんにアンケート調査を行う予定である。

■任意合併協議会で合併が決まるのか。

□任意合併協議会では結論は出ない。次の段階に法定合併協議会があり、それは議会の議決が必要になる。民意の把握をし、議会で徹底的に論議し、議会の議決によって合併するかしないかを決める。



②岡谷市の

まちづくりについて

■ラオカヤの大型店撤退後の利用はどうなっているのか。また、駅南開発の複合館は白紙となっていましたか、どうするのか。

□ラオカヤは諏訪バスさんが90%の床を所有し、残りの10%は約20人の権利変換された方が所有する床である。諏訪バスさんは、企業として新しいテナントを探してきたが、大型商業施設が来ない時代になっているため、なかなか再生が難しいところである。駅南の計画は第3次総合計画の後期基本計画の中で構築していく予定である。

(※6月に諏訪バスさんより、企業経営の厳しさから自力による再生は不可能であり、市で再利用を図ってほしいとの話があり、それを受け7月15日に庁内に『駅周辺地区活性化検討プロジェクトチーム』を設置しました。ラオカヤおよびその周辺地区を今後どのように活性化していくべきか、市民のみなさんの意見、要望をお聞きし、活性化検討計画に反映していきたいと考えています。)



■岡谷病院を建て替えることによる良い病院になるのか。

□岡谷病院の建て替えは、岡谷市の大きな課題の一つであり、岡谷市の医療がどうあるべきかなど、広い範囲から意見を聞き、病院建設に向けた取り組みを進めます。

(※7月11日、庁内に『岡谷市病院研究委員会』を設置しました。岡谷病院および塩嶺病院の地域医療における今後の目指すべき方向等について調査および研究を行います。)

■大学誘致は将来的な経済、予算面から疑問の声がある。県知事も消極的だがどのように進めていくのか。

□少子化など大学を取り巻く環境が厳しい時代ではあるが、芝浦

工業大学は大学経営のプロであり、現在岡谷市への新学部設置について検討していただいているところである。県の支援がほとんど見込めない状況の中で、創意工夫と努力で大学を設置できるかどうか、市民のみなさんと話し合いをしていきたい。

■中央通り4丁目の開発はどうなっているのか。

□昨年、4丁目地区を対象に土地区画整理事業での開発意向調査を実施したが、事業手法に理解を得がたい結果となった。4丁目を含む中心市街地の活性化は重要な課題であり、事業者や権利者のみなさんと随時話し合いを持ち検討していきたい。

■岡谷市は東海地震防災対策強化指定地域に指定されたが、市の取り組みはどうか。また、区はどう取り組みをしたらよいか。

□今年度、公共施設の耐震診断を実施するとともに、昭和56年以前に建てられた個人木造住宅、公会所等の耐震診断の助成を行う。今年度、市内全区に自主防災組織ができる。9月1日に川岸スポーツ広場で総合防災訓練を行うが、各地域でも防災訓練をしてほしい。

任意合併協議会などで

決定した主なものをお知らせします

第9回任意合併協議会

(6月30日(月) 下諏訪総合文化センター)

- ☆平成14年度協議会決算報告
- ☆各種事務事業の取扱い

福祉医療(医療費特別給付金)制度

◇乳幼児医療費：就学前を対象とし、所得制限なしに統一する。ただし、原村については3年の経過措置を設ける。

◇老人医療費：県補助対象基準に統一する。ただし、原村および富士見町については5年程度の経過措置を設ける。

学校給食の実施・学校給食費

学校給食は引き続き実施する。学校給食費は合併時に現行を基本に統一する。



第10回任意合併協議会の様子 (岡谷市役所)

第10回任意合併協議会

(7月14日(月) 岡谷市役所)

☆新市建設計画案の中間報告に基づき協議されました。【計画案の構成は、6月15日号の「広報おかや」に掲載してあります】

★中間報告の概要

新市のまちづくりを進める上での重視すべき3つの視点

- ① 「人と環境」を重視するやさしいまちづくり
- ② 「諏訪ブランド」を創造・発信する躍動するまちづくり
- ③ 「地域」を尊重する地域主権のまちづくり

新市のめざす将来像

「諏訪湖と八ヶ岳がひびきあう、やさしさと躍動の日本中央拠点都市」

将来像実現のための基本目標

- ① 地球にやさしい快適環境都市
- ② 人にやさしい健康福祉都市
- ③ 創造性あふれる生涯学習・文化都市
- ④ 世界へはばたく中核的産業都市
- ⑤ 未来を拓く交流拠点都市
- ⑥ ともにつくる市民参画・協働・自立都市

新市における重点プロジェクト (41プロジェクト)

主なものは、▽諏訪湖浄化▽合併記念公園整備▽火葬場整備▽消防庁舎等整備▽病院整備▽住民参画の地域福祉体制づくり▽大学等高等教育機関・研究機関誘致▽産学官連携の推進等によるスマートデバイス産地形成▽中心市街地・既存商店街活性化▽マリニア中央新幹線整備促進▽市内循環バス運行等環境にやさしい公共交通機関整備▽コミュニティ・地域の自立運営保障システム強化▽特色あるまちづくりなど。

財政推計

平成17年度から平成32年度までの合併した場合と、しない場合の財政推計(シミュレーション)を示しました。

委員から出された意見を基に、新市建設計画案策定小委員会できさらに協議し、再度任意合併協議会に報告する予定です。

第2回新市名称候補選定小委員会

(7月7日(月) 諏訪市役所)

◇副委員長に行田 俊委員(原村会議員)を選出

◇4月15日から6月15日までの新市の名称候補応募総数3101件

◇上位10位は「諏訪」、「諏訪湖」、「すわ」、「御柱」(みはしら)、「新諏訪」、「すわ湖」、「信州諏訪」、「すわこ」、「諏訪大社」、「八ヶ岳」

◇上位3位は「諏訪」、「諏訪湖」、「すわ」を選定し、任意合併協議会に報告することを決定しました。



約200の方が熱心に耳をかたむけました

合併講演会 パネルディスカッション

田中雅夫あきる野市長

(7月12日(土) 岡谷市役所)

第1部は、田中雅夫あきる野市長による「合併とまちづくり」の講演会を実施、諏訪6市町村が特色を生かして合併すれば、日本を代表する自治体になるなどのお話がありました。

第2部は、パネルディスカッションを行い、フリージャーナリストの廣瀬博人さんの司会で、諏訪圏青年会議所理事の宮澤あゆみさん、新市建設計画案策定小委員会委員長の小口政博さん、林新一郎岡谷市長がパネリストとして、田中雅夫あきる野市長が助言者となり、合併や将来のまちづくりのあり方などについて討論を行い、会場からの質問にも答えました。

希望者
には

8月25日より

住民基本台帳カードの交付が始まります

カードは次のどちらかの選択になり市民課窓口で交付されます

Aバージョン



Bバージョン



表面記載
個別事項

氏名
(身分証明書としては使用できません)

氏名・生年月日・性別・住所
(身分証明書として使用できます)

両バージョン共通事項

- ・表面記載 ————— 発行市町村名・有効期限・連絡先(市役所担当課、電話番号)
- ・内部記録(ICチップへの記録) ——— 住民票コード・相互認証情報・暗証番号(申請者本人の設定)・発行市町村コード

住民基本台帳

カードの交付

住民基本台帳カードの交付を希望される方は、市民課窓口へ運転免許証、パスポート等本人写真が添付された官公署が発行した書類をご持参ください。(本人確認のため使用します)

・住民基本台帳カードの有効期間は10年です。
・住民基本台帳カードの交付手数料として500円かかります。

住民基本台帳カードにより

- ① 全国どこの市町村でも自分の住民票の写しが取れます。(戸籍の表示を省略したもの)
- ② 引越しの手続で窓口に行くのは転入時1回だけで済みます。
- ③ 公的個人認証制度が開始されれば電子署名を利用したオンラインによる申請・届出が可能となります。

住民基本台帳カードのセキュリティ対策

- ◆ 住民基本台帳カードは、高度のセキュリティ機能を備えたICカードを内蔵しています。
- ◆ 目視角度により色が変化する特殊印刷を施しています。

◆ 極小サイズの文字(マイクロ文字)を用い偽造防止に努めています。

◆ 輸送中の不正利用防止のため、輸送鍵の設定を行っています。

◆ なりすまし、改ざん、偽造防止のため、パスワードの照合により相互認証を行います。また、規定回数以上の照合失敗時にカードを自動的にロック状態にします。

◆ 住民基本台帳カードに内蔵されたICチップのこじ開け等の攻撃に対し、メモリ内の情報が読み出せないよう耐性タンパー機構を施しています。

◆ 住民基本台帳カード内の各アプリケーション間はファイアウォールが設けられています。

◆ 住民基本台帳カード内の各アプリケーションに対しては、アクセス権限をもつサービスのみがアクセスできるようにしています。

問合せ先

市民課

☎ 23-4811

内線 1153

E-mail: ss@city.okaya.nagano.jp